



「社会福祉基礎」:外部講師の授業を行いました

テーマ「人間の尊厳と福祉社会の創造」 ～福祉の理念とケアサービスの意義～

6月4日(木) 5・6限、3年生選択科目『社会福祉基礎』において、サンビレッジ国際医療福祉専門学校介護福祉学科専任教員の大窪明美先生による授業を行いました。内容は『人間の尊厳と福祉社会の創造』です。3年2組の科目選択者28名が出席しました。その様子を紹介します。5限目はパワーポイントによる講義、6限目は介護施設での利用者役と介護者役のロールプレイを行いました。

5限目の講義内容

講義は「介護と聞いて皆さんは何を想像しますか?」という質問から始まりました。「食事のお世話、排泄のお世話、入浴のお世話」などの答えが挙がりました。これらは三大介護といわれる介護です。

30年前の介護サービスが充分でなかった頃の在宅の高齢者の写真を見ました。介護保険ができる前は、社会的入院が社会問題となっていました。病状が良くなっても、生活支援がないために、あるいは福祉への偏見のために、入院を継続している状態がありました。経管栄養によって命が助かっても、生活を支える介護がなければ、寝たきりの状態になります。適切な介護がその人の生活をサポートします。適切な介護が入ることで、サービス開始時から数か月経った利用者さんの姿は大きく変わっていました。



家族の方が在宅で介護をされている様子。
しかし・・・



三大介護だけでは十分なケアとは言えないのです。

介護サービスに関わる職種は下記のとおりです。

- ①介護職員…社会福祉士、介護福祉士、2級ヘルパー ②介護支援専門員…ケアマネジャー
③相談員…社会福祉士 ④医師、看護職員 ⑤言語聴覚士、作業療法士、理学療法士
⑥栄養士、調理員

6限目のロールプレイ

自立支援はコミュニケーションから始まります。障がい者体験・介護者体験をしてみましょう。

- ①2人のペアになります。②片方が利用者役、もう片方が介護者役になります。

【利用者役になった人】言葉を話すことができません。身振り手振りもできません。できることは頭を立て横動かすこと、表情で喜怒哀楽を表すことです。

【介護者役の人】昨晚の食事について聞きます。どこで、誰と、何を食べたか。

- ③利用者役になって何を感じましたか？介護者の聴く態度は？視線は？

この体験から、言葉は上から下へ向かうと命令になり、下から上へ向かうとお願いになるということが分かりました。コミュニケーションは、視線を合わせて笑顔で行うと仲間意識が生まれます。人は自分のテリトリーに近づいて来られることを嫌いますが、介護は相手に近づいて行う仕事です。自然に利用者の耳に入ってくる言葉と、入ってこない言葉があります。利用者は人に迷惑をかけていると思っています。よい表情と笑顔で話しかける介護者の態度が利用者の心を開きます。それは、利用者が「一人の人として尊重されている、大切に向き合ってくれている、気持ちを考えてくれている、関心を持ってくれている」と感じることです。皆に向かって挨拶するより、一人一人に目を向けて声をかけて挨拶することで、自分が尊重されていることが分かります。

福祉人として望まれる人物像とは、他人の痛みを感じずる感性をもち、人として対等という福祉感を理解する人です。

介護の専門性について考えました。介護はその人の生き方を支える役割があります。それはその人の持っている力を引き出し、最も心豊かに過ごせる方法を作り出すことです。これが、QOL (= Quality of Life) (生活の質)・ノーマライゼーション(障がい者と健常者とは、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方、またそれに向けた運動や施策)であり、自立支援です。

あなたも福祉文化をつくる社会の一員になりましょう・・・「自分が変わる。人が変わる。社会が変わる」。



相手を尊重する挨拶の仕方を学びました。



認知症の方への声掛けの方法やその人の尊厳に配慮した支援方法を教えていただきました。

授業後の振り返り

➤ 生徒の感想

- ・様々な事例をお聞きする中で、利用者の方と真剣に向き合うことがその人の人権を守り、人としての尊厳を守ることにつながることを知りました。
- ・高齢者施設で働いている職員の方のやりがいは、利用者の方に様々なアプローチをする中で、入所時よりもできることが増えたり、笑顔が見れるようになったときではないかと思いました。
- ・利用者の方にとって、自分の存在を認めもらうことが一番の喜びであり、コミュニケーションを図る中で大切なことではないかと考えることができました。
- ・失語症のために言葉と発することが難しい利用者の方の思いを理解することはとても大変だと思います。だからと言って、言いたいことを分からないままにするのではなく、自分の仕事の時間を割いてでも利用者の方と向き合い、何を伝えたいかを理解することがとても大切で、そのやりとりの中で人間関係が形成されていくこと学びました。
- ・様々なお話を聞いて、私も人を笑顔にできる仕事がしたいと思い、言語聴覚士という仕事にとっても興味をもちました。また、いくつかの写真を見て、自分のことを理解してくれる人がいるととても素敵な笑顔になれるのだと感じました。
- ・コミュニケーションの演習では、利用者の方が伝えたくても伝えられないということがどれほど苦しくて辛いことなのかがよくわかりました。時間がかかっても、表情や身振りで自分の思いが伝わった時は、とても嬉しかったです。この演習を通して、自分も相手のことを考えながら、根気よくコミュニケーションを図っていきたいと思いました。

➤ まとめ

介護は、要介護者の日常生活動作のお世話をするだけではなく、人間対人間の関わりの中で行われていくものです。ただ命を長らえるだけの介護ではなく、その人らしく、よりよく生きられるよう支援することが福祉専門職の仕事です。人間の尊厳を守るケアを提供することで、ただ生かされているのではなく、生きる喜びや楽しさを感じていただけるのです。

～本校では、ESDを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～